

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部　グループホーム　A		
所在地	長崎県佐世保市城山町3 - 2 1		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年　2月　1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、毎朝声をあげ理念を唱え実践に努めている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の入居者との散歩や近くの飲食店の利用、地域の行事に参加したり、近所の方とは時に立ち話をする等地域の交流に努めている			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧にパンフレットを掲載してもらい、玄関に案内を貼る等で常時施設見学を受け付けている。研修生の受け入れも行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に出来ていない。前回の評価結果と問題点の報告を行った。今後も参加者の意見をサービスの向上につなげたい			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険認定日には、日常の様子等を伝えたり、市主催のケアマネ・他の研修に出席したり、その都度相談もしている			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室・玄関は施錠しなく、入居者の所在確認を絶えず行い、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居時文書を交付し、説明・同意を得ている			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学ぶ機会もあり、虐待は絶対あってはならないという事を職員全員が常に意識して防止に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き学ぶ機会があった。現在は対応が必要な方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族・利用者と説明の時間を持ち、不安・疑問点を聞き理解・同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を目につく所に設置し、面会時には話やすい環境づくりに努めている。入居者の意見はその都度全員で話し合い対応している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体のハナレイ会と毎月のフロアーミーティングで意見や提案を聞いている。入退居時や職員の交代等大切な事は代表者と話合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は殆ど常勤で対応中で、毎年昇給もあり相談などにも乗ってもらっている。管理者は通常のシフトに入ってなく、入居者の状態の変化に対応出来ている。休憩室も別のフロアーで、足を伸ばせる所にある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講演会等の案内を、回覧で自分に合った研修に参加したり、経験に応じた研修を受け入れる勤務調整も行っている。研修の報告も行っている。又状態の変化時はミーティングを行いその都度対応している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やボーリング大会・相互訪問等、同業者とできるだけ交流を図っている。グループホーム連絡協議会にも加入している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学や面会で話し合える機会を持ち、安心感を持ってもらえる環境を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予約・入居時に話しやすい雰囲気作りに努め、家族・入居者からでた不安・要望を聞き十分な説明・アドバイスを心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で話し合い、その方にとってより良い支援が出来るように努め、又他事業所のサービスを勧めたりその方にあった対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話やレクリエーション時、昔からの習慣・経験を学び、職員は傍で聞き手となって話しやすい雰囲気をつくり、一緒に暮らしている気持ちで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や急な時は電話でその都度状態の説明を行い、散歩や通院介助の付き添いをお願いする時がある。又状態変化時も本人・家族の希望を一緒に考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人や近所の方・家族の面会時に本人との時間を大切にもらい、季節の外出や近くの神社には毎年初詣に出かけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて一緒に楽しめる場所を作り、平等な声かけで入居者間の仲間意識をもてる様にし、孤立させないようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院時は、家族へ連絡を取ったり面会を心がけている。又隣接の病院に入院された時は、他の入居者もお見舞いに行っている。退居された方には行事の声をかけを行っている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の生活リズムを把握したり、希望に耳を傾け出来る限り叶えられる様努めている。又日々の様子を毎日記録している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活歴・家族の背景など、自宅や病院へ訪問をして入居者・家族又はケアマネなどに聞き把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・バイタル測定や会話・表情を観察し記録している。又フロアーの中心に廊下があり一人一人の行動が分かりやすい		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時や申し送り時に問題点を話し合い、入居者・家族の希望を聞き、その方に合った介護計画を立てている。定期的に見直しも行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や実践結果を個別にチェックしたり、入居者が話された事も他の職員に伝え、作成後も定期的に評価している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や必要に応じて主治医へ報告したり、入院時は退院に向け通院等可能な限り取り組める様、その都度職員と話し合い個別のケアに取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の建物の利用やボランティアの受け入れ、消防署による防火訓練・近くの交番の巡回もあった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族・本人の希望を聞きかかりつけ医を決めてもらっている。又併設の病院で通院出来ない時は往診をしてもらい安心されている。紹介状や意見書の支援もある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がいて情報・気づきをその都度報告したり、医療連携体制もっており適切な受診・介護を受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に職員が見舞いに行ったり、家族や病院との連絡を密にし早期退院にむけ情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と、重症化した場合は希望に添える様に再度話し合い同意を得ている。今年終末ケアがあり、家族・職員が共通のケアの考えで出来たと思う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や夜間時の対応・通報マニュアルを備え、職員間の勉強会も行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所が目につく所に提示され職員は把握できている。定期訓練・消火器訓練も行い、運営推進会議時に地域に依頼した。今年4月にスプリンクラー設置し、非常時の持ち出し品とファイルも作成した		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての態度と、一人一人に合わせた優しい言葉使いに注意して、間違ってもむやみに訂正しない。入室時はノックと声かけをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい温かい声かけやスキンシップで、思いや希望を聞いたりこちらからも働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で自分の時間を過ごす方もいれば、体調や意志を思う様に伝えられない方にはスタッフが注意し一人にならない様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着られる服と一緒に選んだり、外出時や毎月のビューティヘルパーの利用でおしゃれを楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の献立の工夫と音楽を楽しみながら職員と一緒に食事をとっている。又その方に合ったお手伝いをして頂き感謝の言葉をかけ自信を持ってもらう。月一回のペースで外食に出かけている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に注意し、その方に合った量・形態を取り、見守り・介助を行い摂取量もチェックしている。又飲水時間も決めたり給水設置場所を決め、いつでも飲める様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、リビングの洗面台で磨かれた後の仕上げやその方に合ったケアを実践している。義歯も毎食後洗浄し、定期的にポリデントを使用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表でパターンと誘導・声かけ・その方に合ったバットの使用を行っている。夜間はベットサイドにポータブルトイレを設置し、自立にむけた支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と、朝の散歩や体操・献立の工夫に心がけ、一人一人に応じた対応に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、体調や湯の温度など希望に応じて対応し、入浴中も楽しい会話を心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は休息や昼寝をしたり、散歩やレクレーションも体調に応じて無理強いしない様になっている。夜間は水分補給や照明・物音にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋と疾患別のファイルを作成して理解に努めている。内服の変更時は申し送りで効能・副作用を理解し、本人にも説明されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・ゴミ捨て・洗濯物たたみ等、家事が出来る方は一緒にしてもらい、感謝の言葉を忘れないようにしている。季節に応じた外出も楽しみにされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の天気よっての施設内・外の散歩や、計画を立て定期的に外出する事で気分転換と地域との交流を図ってもらっている。又近くのコンビニに買い物にでかけたりされる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で支払い・買い物ができる方もいるが、金銭管理が出来ない方は個別に預かって家族に同意書をもらい、定期的に出納帳の確認や預かり書の発行・領収書を渡している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおり充電の支援や、他の方は希望時その都度電話をかけている。郵便物が届く方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル・掲示物やベランダで季節感を感じてもらい、ダイニングは窓は広く、外の様子を眺めながら食事をしたり、ロールカーテンで光りを調節している。換気や清潔には気を配り毎日行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自のペースで居室でテレビや読書をしたり、リビングでは気の合った方となるべく近くに座ってもらったりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は自宅から自由に思い出の品や家具を持ち込まれ、自分なりの居室で楽しまれている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで廊下・浴室・トイレに手摺りがあり、居室には洗面台とトイレを設け自立した生活が出来ている。職員も全体が見える所で記録を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部 グループホームB		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成 22年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道沿いのバス停の近くで、家族の面会にも交通の便が良い。 病院が併設されている為健康管理や、緊急時の対応に、利用者が安心して生活ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院に併設された事業所として、主治医に指導を仰ぎ看護師長との話し合いを通して、介護現場から医療現場へのタイミングを見計らった連携により、利用者の日々の健康管理や緊急時の迅速な対応に努め、利用者や家族の期待や安心につながれている。理念を振り返ると「安全で安心できる熟練した介護を提供します」、「穏やかで、豊かなその人らしい生活を支援します」、「地域に密着した楽しい生活ができるよう尽力します」を三本柱に掲げられている。一方、利用者と職員の共同生活の場としての雰囲気には希薄感が感じられ、訪問当日の昼食後、テーブル席の利用者の「オ～イ、お～い」の度重なる声掛けにも、職員各自が自分の業務が優先された面もあった。業務を機械的に遂行するか否かが施設型ケアとユニット型ケアの根本的な相違点の1つでもあるので、今一度、「理念とは」、サービスの特徴である「認知症対応型共同生活介護の事業所としての業務のあり方とは」を日常業務で点検し、先ずは、「できているところとそうでないところ」を全職員で見極めて、正しい理解と的を得た努力で「ハイビスカス」の花を咲かせてほしいホームである
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと	
			3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度	
			3. たまにある			3. たまに	
			4. ほとんどない			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている	
			3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない	
			4. ほとんどいない			4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三つの理念が掲げられており、毎朝職員全員で唱和している。	理念の意識づけを目的に毎朝の唱和と、年頭のカンファレンス会議の際に、職員目標の聴取の取り組みをされている。お題目的になっていることや職員間の認識にバラつきがあり、理念の共通理解にも至っていない点もあるが、現状を振り返った時、理念の三本柱の一つである「地域に密着した楽しい生活支援」は実践に反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時、近所の方と挨拶を交わし、地域の行事にも参加している。	町内会に加入され、行事等へも可能な範囲での参加をされている。又、利用者と一緒に近隣の商業施設の利用をされており、馴染みの関係づくりは理念の具現化でもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧にパンフレットを掲載してもらい、玄関に案内を貼る等で、常時施設見学を受け付けている。研修受け入れの態勢を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に実施できていないが、事業所の現状、利用者の状況等報告し、参加者からの意見を聞いている。	運営推進会議は、平成20年9月、平成21年8月、平成22年12月の年に1回の開催である。運営推進会議の意義と必要性を感知されていないことも正直に伝えられ、2ヶ月に1回の開催となると議題にも困窮する旨を話された。	まずは、外部評価の結果を報告する運営推進会議を開催されることが望まれる。事業所の理念を根幹としたサービスの実際やサービス提供の工夫点など、理念に基づいた運営状況や取組内容を報告し、取り組みや課題に対する改善経過などに対して、参加メンバーにモニターになってもらうことや、タイミングも考慮されることに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員が参加され、意見交換をしている。	介護認定申請等で訪問した時に、介護保険制度の変更内容や疑問点などの問い合わせをされている。また、入居相談や待機者について、地域包括支援センター等を介しての連携した取り組みもされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況により、危険防止の為夜間センサーマットを使用している。	入居時に、国道に面した事業所ということもあり、安全確保と危険防止を理由にエレベーターと階段を20時から翌朝8時まで施錠することについて説明し同意を得られている。	更なる取り組みとして、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の正しい理解と実践の継続を目指して、業務の振り返りや研修の定期的な取り組みに期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、日々注意を払い防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を行った。 以前活用されている方がいた。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、疑問点等いつでも聞けるようにしている。		
10	(6)	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱を設置している。 意見、要望があった際はその都度対処している。	家族等から寄せられる要望は、殆どが利用者のケアに対する内容が多く、口頭での意見交換になっている。	
11	(7)	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者を交えての定期的な会議や、フォーミーティングで意見や提案を聞き反映させている。	理事長でもある施設長は、ほぼ毎日事業所を訪問され、利用者の様子や業務に対しての問いかけなどで現場とのかかわりや職員とのコミュニケーションを図る機会を持たれている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場へきて、声かけをおこなっている。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修に参加できるよう進められている。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等参加で意見交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に要望等を聞き、本人が安心できるよう声かけを多くし、不安がないように努めている。	
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望等を聞き、入所後もいつでも話を聞けるよう努めている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い適切な支援ができるよう対応に努めている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中でも学ぶ事が多くあり、一緒に楽しめるようコミュニケーションに心がけている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に本人の状況を伝え、情報交換を行い本人を支えていけるよう心がけている。	
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会もあり、本人の希望があれば家族に伝え外出できるよう努めている。	面会の受け入れにより、馴染みの電器店や教え子、現職時代の同僚など、本人を取り巻く人や支えてきた人達との関係が途切れないような支援に努められている。
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごされる方が多く、談話やレクレーションで一緒に楽しめるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は、家族に連絡をとったり、面会に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしで把握し、本人の思いに添えるよう努め検討している。	職員の利用者に対する介護計画を踏まえた意識付けとして、6ヶ月に1回、利用者一人ひとりに対して職員が輪番制でアセスメントシートにチェック等を入れて、身体や精神状況の把握もされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェイスシート作成で生活歴等を本人や家族より聞き取り、日々の会話の中でも知り得た情報を書き込み把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックと介護記録と申し送りで、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れた介護計画になっており、毎日ケアプランをチェックし、三ヶ月後に評価している。又、変更があればその都度見直しをしている。	職員が作成したアセスメントシートを参考に、介護計画作成担当者が身体的、精神的、認知症の度合い、家族との関わりなど総合的に判断して介護計画の見直しや継続につながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、毎朝申し送りをし、職員間で情報を共有して介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に洗濯をされたり、毎日シャワーを浴びられる方もいる。希望者には毎日入浴できるように環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニでの買い物時には、自身で支払って会話をされている。 月一回外出、外食で社会参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけの医療機関に行っている。	かかりつけ医を別にもたれていた殆どの利用者が、自発的又は納得されて、入居時にかかりつけ医を母体医院の医師に変わられており、日々の健康管理や医療連携による適切な医療受診につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週四日勤務している為、状態変化に応じた受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を尊重し、かかりつけ医のもとスタッフ間で話し合い、方針を共有している。 入所時に重度化した場合の事を聞いている。	平成22年7月に看取りの取り組みを表明され、利用者からも看取り介護に対して現時点での同意を得られているが、その都度話し合いを通じた対応の必要性も理解されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っている。 マニュアルも作成されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っている。 災害時の避難場所が目に付くところに提示され職員は把握できている。 今年、スプリンクラー設置し、非常時の持ち出し品とファイルも作成した。	地域の協力体制については、運営推進会議で協力の呼びかけをされている。又、ライフラインの確保を意識した対策として、災害に備えた備品や持ち出し品の準備もされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう心がけている。	居室見学のとき、該当利用者に「お部屋を見学させてもいいですか」と声を掛けて、ご案内頂いた。又、個人記録等も特定の場所に適切保管・管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声かけを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時は、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べたい物を聞いて、取り入れるようにしている。 食事の準備や片付けも一緒にしている。	椅子の高さに対してテーブルが若干高めなのが気になるが、環境的には食堂と厨房が対面式のオープンな作りとなっているため、調理音や煮炊きの匂いなど五感に響く支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量と水分量のチェックを行い記録している。食事が入らない時は栄養補助食品で補うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、一人ひとりに合わせ仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、オムツの使用を減らしている。	日中はトイレでの排泄支援を心掛けられており、排泄後の始末は可能な限り、本人に委ねられている。又、オムツからリハビリパンツへ、リハビリパンツからパットへと排泄対応用品のレベル低下を目標に自立支援に繋がれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいる。 個々に応じて、バナナやヨーグルトを食べられている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めているが、本人のペースでゆっくり入ってもらっている。 毎日シャワーを浴びる方もいる。	一週間の内、1日だけ休湯日があり、残りの6日は毎日沸かされており、基本的には週3日の入浴支援である。利用者によっては、居室にタオルや石鹸、シャンプー等が入った洗面器が目につくところに配置されている。職員と一緒に唄を歌ったり、悩みや打ち明け話をされるなどリラックスした時間を過ごされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ、いつでも居居で休めるようにしている。 昼食後はお昼寝の時間を持ち休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に処方箋が閉じてある為、いつでも把握でき、症状の変化があればすぐに対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備やお手伝い、生け花にクロスワードと、一人ひとりに合わせて、日々楽しく生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えないときもあるが、家族の協力で出掛けられている。 月に一度は外出、外食に行っている。	可能な限りでの毎朝の散歩以外に、市民との交流など社会性の継続や気分転換、外気浴などを目的として、月に1回、利用者の身体的負担にならない距離の範囲内で、外出や外食の支援をされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、預かり金をし金銭管理をしているが、いつでも出せるようにし、買い物時は本人に支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員がダイヤルし、本人が話せるようにしている。 携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を一緒に作り掲示している。 空調の温度管理は個々に合わせてしている。	共用空間と居室等に極端な温度差はなく、澁んだ空気や嫌な臭いもなく換気の行き届いた環境である。又、装飾や調度品なども、品格を大事にされている。リビングの透明ガラスは開放感を演出し、社会との連帯感も味わうことができる。又、廊下には腰掛けが配置されており、人の気配を感じながら独り居や集いを選ぶ事もできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングやソファーもリビングと廊下に置いてあり、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好み、馴染みの物を持ち込まれ写真や、ポスター、お花等飾られている。	見せていただいた居室からは、本人の趣味や状況を窺い知ることができ、本人が落ち着いたり、安心できる空間となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、脱衣所には手すりがつけられている。 浴室の扉はカーテンに替えている。		